

はじめに

平成26年度は、「安全と健康、そして復興～地域社会（学校・企業・民間団体等）との連携＝日本で最も元気な交流の家」をスローガンに運営してきました。

このスローガンを実現するため、職員研修を適宜開催し職員の意識向上を図りました。また、利用者サービスに関するアンケート結果については、「満足」「やや満足」が全体の99%以上となっております。

継続実施した教育事業については復興を意識し内容を吟味、確認していますが、新規事業である、文部科学省委託事業「日独学生青年リーダー交流事業」ではドイツの参加者が東日本大震災被災地の青年と奉仕活動をとおして交流し、「さんりく体験！探検ツアー 最初の一步～岩手横断370キロ～」では、岩手県内陸の子供たちが被災地を学びました。

また、今年度は例年の教育事業（約900万円）の外に特別な事業を実施するための経費について本部に要望しました。『みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会』の設置に伴う事業経費（約380万円）と「子どもゆめ基金相談コーナー」設置経費（100万円）ですが申請したところ満額の回答を得ました。他に、事業の質を維持するため「平成28年4月に計画されている定員削減計画（2名減）の延期に関する要望」を提出しましたが、こちらについては残念ながら未だに回答が得られておりません。

今年度は、機構全体で児童養護施設や母子生活支援施設など困難な環境にある子供たちを対象としたプログラムが創設されましたが、当交流の家では平成22年度から「タートルズキャンプ」を実施していることから、他の施設の模範となる事業となりつつあります。

法人ボランティアの活躍も特筆されます。「日独学生青年リーダー交流派遣事業」に青木眸美さんが参加、本部国際交流事業「世界の仲間とゆく年くる年」に学生リーダーとして高橋知也さんと高橋諒さんが、本部青少年対象事業「学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」に梅田実里さんが学生委員となり運営に尽力し本部から高い評価を受けました。また、岩佐理絵さん、梅田実里さん、山本真輝さんが勉学とボランティア活動を両立させ他の模範として高く評価され機構法人ボランティア表彰を受賞しました。

今年度は、地元滝沢市との連携・協力に関する協定の締結や「体験の風をおこそう」運動の幟旗が青森県、岩手県、秋田県、宮城県の全133市町村に設置されるなどうれしいことが続きましたが、残念なことは岩手大学 塚 茂樹 学長が御逝去されたことです。故郷が同じく函館で小学校の先輩で、御指導をいただくことを楽しみにしていました。

平成27年度は、昨年6月に策定された「国立青少年教育振興機構が重点的に取り組むべき課題と具体方策（新・機構元気プラン）」を忠実に実行していきますので、これまで同様、御指導、御鞭撻の程よろしく申し上げます。

平成27年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 所長 三 上 智